

konohana permanentele 100+にかかるテーマやコンセプトについて

1 konohana permanentele 100+ とは

「konohana permanentele 100+」とは、将来にわたって 100 以上のパブリックアートを正蓮寺川公園に設置するプロジェクトを軸に展開される事業の名称であり、「コノハナペルマネンターレ ヒャクプラス」と読む。

permanentele (ペルマネンターレ)とは、イタリア語で「永久的な、常設の」という意味の permanente (ペルマネンテ)と、イタリア語で「2年に1度の芸術祭」を指す biennale (ビエンナーレ)や「3年に1度の芸術祭」を指す triennale (トリエンナーレ)の末尾の ale (アーレ)を合体させた造語で、数年に1度の芸術祭ではなく「永きにわたって持続していく芸術祭」「常設の芸術祭」であるとの意味合いを込めたものである。

また、100+ (ヒャクプラス)とは、将来的に 100 個以上のパブリックアートの設置をめざす意志を示したものである。

2 テーマやコンセプトについて

【テーマ】

いのちの輝き脈々と、未来へ

此花区で開催される 2025 年日本国際博覧会(大阪・関西万博)の趣旨に共鳴しこれを強く支持するとともに、区制 100 周年を記念するため、大阪・関西万博にゆかりの深いコトバである「いのちの輝き」「ミyakミyak」を用い、人々がこれまで「百年」を幾度も重ね脈々とつないできた歴史とところを、未来に向け脈々と継承し、発展させ、人々がいのちを輝かせ続けることへの願いをあらわしている。

【コンセプト】

- ① 百年の歴史とところを、アートを通じて未来へ継承し、発展させる
- ② 人々が、100 以上のアートを未来に向けて脈々と作り続け、更新し続けていくことそれ自体によって、脈々と未来につながり続ける命の輝き(well being)を表現する。
- ③ 子どもが笑顔を輝かせ喜ぶアートを通じて、多くの人々の笑顔を創り出し、その笑顔も“コロニー型アート” (※)の一部とする。
- ④ 長年にわたり増殖し、形を変えていく「konohana permanentele 100+」自体を“コロニー型アート”としてとらえる。

※ コロニー型アート

サンゴが個々のポリプが集まってコロニー(群体)をつくるように、個々のアートの集合体をひとつのアートとして捉えるための造語である。「konohana permanentele 100+」の全体が、いわばひとつのアートとして人々のところに響くようにとの願いを込めている。